

# SPRING

No.101

日本大学 生産工学部 2013年8月1日発行

■学部長メッセージ

生産工学部におけるキャリア教育

■特集

生産工学部におけるキャリア教育  
座談会：生産実習を体験して

■2012年度就職状況の概要

■学科ニュース

■平成24年度 学位取得者

■連載 卒業生インタビュー

プラネタリウム・クリエーター

(有) 大平技研 代表取締役 **大平貴之**さん

■「生産工学部創設60周年記念事業募金」寄付者ご芳名

■トピックス

■新任教員紹介

■CAMPUS NEWS

■平成25年度行事予定（後期）

Contents

- 学部長メッセージ.....2
- 特集
  - 生産工学部におけるキャリア教育.....4
  - 座談会：生産実習を体験して.....6～9
- 2012年度就職状況の概要.....10
- 学科ニュース.....11～15
- 平成24年度学位取得者.....15
- 連載 卒業生インタビュー.....16
  - プラネタリウム・クリエイター
  - (有) 大平技研 代表取締役 大平貴之さん
- 「生産工学部創設60周年記念事業募金」寄付者ご芳名...18
- トピックス.....19
- 新任教員紹介.....20
- CAMPUS NEWS.....22
  - WINCOM2013/ 鳥人間コンテスト
- 平成25年度行事予定(後期).....23



表紙：整備が完了した実籾キャンパス第一球場

# 生産工学部におけるキャリア教育



日本大学生産工学部学部長  
**松井 勇**

未曾有の大災害と称される東日本大震災と原発事故から2年6カ月。地域によっては、復興の度合いに格差が生じ、さまざまな懸念材料が広がっています。その中で、復興に積極的に取り組まれている学生・ご家族、そして日本大学の校友の皆様にご心より敬意を表するとともに一日も早い復興を心より祈念いたしております。

東日本を襲った地震と津波。そして福島原発事故による「巨大複合災害」の惨状を目の当たりにした時、「何もかもはできなくても、何かはきっとできる」今こそ「何かに役立つことがある」との強い思いで、ボランティア活動に馳せ参じた学生たちがいます。研究室で取り組んだ被災地の復興プロジェクトに参加し、教員とともに成果を挙げた学生たちがいます。

このような社会状況の中で「考え」、「行動」を起こし、「活動」を繰り広げることができる学生たちが被災地の現場や復興の現場から学び、体験できたことは、まさにキャリア教育の実践にほかなりません。

私どもの学部は、1952年(昭和27年)工学部(現理工学部)に、経営管理能力を備えた技術者の育成を理念として開設された工業経営学科を前身とし、1966年(昭和41年)生産工学部に改組され、現在に至っております。

生産工学部へと改組した時、生産工学について次のような記述が残っています。

〔生産工学（応用工学）：技術教育と企業に必要とされる経済組織の合理化と調和融合シタコロノ体系的ナヒツツノ知識ヲダイナミックナ生産過程工学ヲ通ジテ、産学機関ノ思想ヲ実践スルコトノ出来ル生産工学ヲ教育スル〕

現在の社会は、言うまでもなくMOT（技術経営＝マネジメント・オブ・テクノロジー）の素養を持ち、経営や管理の能力を有した技術者の養成が強く求められております。

生産工学部は、我が国で初めて経営管理能力を有する技術者の育成、換言すれば、産業界に役立つ人材育成を教育目標に掲げた学部であります。理論と実践の融合教育として、さらには実践能力の向上を図るための教育として「生産実習」（インターンシップ）を必修科目として位置づけてきました。

理工学部からの分離独立の趣旨書によれば「生産工学的教育を強化するために各学科ごとに、関連工業 8 部門にわたり、実習先を選定し、従来の学外実習を拡充改善して長期間にわたり実習を実施し、産学協同の趣旨に添って生産の実態を十分体得せしめる」とあり、3 年次の夏期 4 週間と 4 年次前の春期 4 週間の計 8 週間・8 単位で必修科目として生産実習（インターンシップ）をスタートさせました。

以来、学部創設の精神に基づいて、理論と実践の融合教育を理念とし、産学連携のプログラムとして、企業、学外研究・公的機関などにおける就業体験から学生たちに理論と実践技術との密接な関連を体得させ、豊かな独創性と実践的な発想力と創造力を兼ね備えた工業技術者の育成を目的としてきました。

何度かのカリキュラム改正など変遷があり、8 週間・8 単位であったキャリア教育の中核をなす「生産実習」は名称、実習期間、設置学年及び取得単位数も変わりましたが、現在は、3 年次に必修科目として 2 単位、さらに選択科目として 2 単位、計 4 単位のインターンシップを実施しており、毎年夏季休暇中に 1400 名以上の 3 年生が、企業、学外研究・公的機関等で実習を行っております。その成果は内外で着実に認められ、朝日新聞の社説にも掲載されました。生産工学部卒業生の入社後 3 年間の離職率は 11% であり、大卒者全体の 35% という離職率をはるかに下回っております。

す。これらは在学中に体験した生産実習（インターンシップ）の所産と自負いたしております。また、大学院においても生産実習（インターンシップ）を本年度より実施するとともに、海外提携校を含め海外での実施・実践を積極的に推進しています。

生産工学部の生産実習は、教育の産学連携と言われるインターンシップ制度の先駆けではありますが、一貫して必修科目であることに変わりはなく、50 年近い時間の流れの中で多くの実績を残し、内外で高い評価を受けております。生産実習（インターンシップ）の長い経験によって築かれた受け入れ企業・機関との信頼関係や種々の実績の定着、そして培われた豊富な経験等は、本学の貴重な財産になっていると言えます。

また、生産実習（インターンシップ）を経験した学生たちにとっても、貴重な財産になっていると言えます。9 月に学生たちが大学に戻って来たとき、目が輝いている学生がいます。授業への取り組み方も変わります。「能力に限りなし、時間に限りあり」ということを自覚する学生が現れます。礼儀・作法や態度も変わってきます。「社会から学んだこと」を実践する学生が現れます。何よりも「学ばない者は人のせいにする。学びつつある者は自分のせいにする。学ぶということを知っている者は誰のせいにもしない。」ということまでも理解できる学生が現れます。

2011 年度に「大学設置基準」が改定され、各大学・短期大学には「社会的及び職業的自立を図るに必要な能力を培うための体制の義務化」が求められ、その中核になるのがインターンシップであることは間違いありません。

そのような中で、2012 年、NPO 法人日本インターンシップ推進協会の会長に就任いたしました。

生産工学部で培われた経験と蓄積された知識を生かし、在学中のインターンシップを通じ、将来の日本を担う全国の若者たちのキャリア教育に大いに寄与したく存じております。

以上、学生たちはもちろん、社会にとってより魅力ある生産工学部を創出するために努力いたしておりますので、さらなるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 1. 我が国におけるキャリア教育

現在、キャリア教育という言葉は広く認知されるようになってきましたが、そもそも我が国でキャリア教育の概念が示されたのは、平成 11 年 12 月に中央教育審議会が「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」の答申中で「学校教育と職業生活との円滑な接続を図るため、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせると共に、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てるキャリア教育を、小学校段階から発達の段階に応じて実施する必要がある」と提言されたのが最初であります。さらに、この答申には、「キャリア教育の実施に当たっては家庭・地域が連携し、体験的な学習を重視するとともに、各学校ごとに目的を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある」とも記されています。

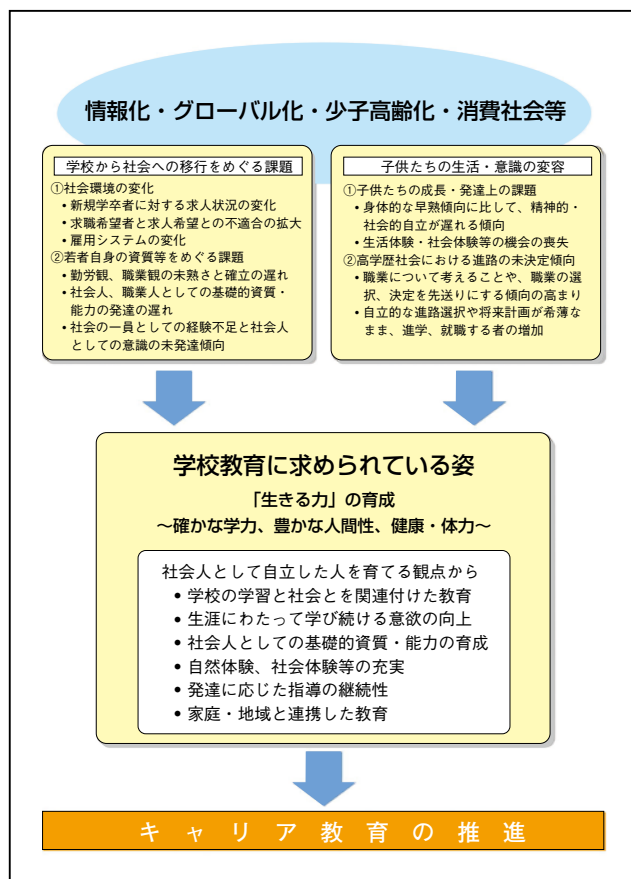
この答申を受け、平成 14 年 11 月に国立教育政策研究所生徒指導研究センターが「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」を開示し、初等中等教育におけるキャリア教育を実践するための学習プログラムの枠組み（例）が示されました。

キャリア教育が必要になった背景には、社会の急激な変化とそれに対応できない子供たちが増えていることがあります。国としても、政府、地方自治体、教育界、産業界が一体となった取り組みが必要だとし、平成 15 年 6 月に文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣、経済財政政策担当大臣の関係 4 閣僚による「若者自立・挑戦戦略会議」が「若者自立・挑戦プラン」を策定し、キャリア教育はこれをきっかけに政策的に推進されることになりました。さらに、平成 18 年 1 月には、内閣官房長官、少子化・男女共同参画担当大臣も加わり、「若者の自立・挑戦のためのアクションプラン（改訂）」が出され、キャリア教育のますますの充実が図られることになりました。同年 12 月には、60 年ぶりに教育基本法が改正され、「各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自律的に生きる基礎を培う」ことが義務教育の目標の一つに位置づけられました。その後、具体的な方策として、キャリア教育の充実を盛り込んだ学習指導要領の改定などがなされました。平成 20 年 7 月には「教

育振興基本計画」が閣議決定され、今後 5 年間（平成 20～24 年度）に取り組むべき施策の 1 つとして「関係各省の連携により、キャリア教育を推進する」ことが挙げられています。

中央教育審議会は平成 23 年 1 月に発表された「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の答申中で、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達\*を促す教育」をキャリア教育と定義し、「社会人・職業人としての自立が迫られる時期である高等学校におけるキャリア教育の充実は、喫緊の課題である」と述べています。現在、この答申が高等学校のみならず、多方面において、キャリア教育の指導内容・指導方法の充実のために指針になっています。

また、大学関係に対しては、文部科学省が平成 23 年度施行として、大学及び短期大学の設置基準の改正を行い、社会的及び職業的自立を図るに必要な能力を培うための体制の構築を、各大学のカリキュラムに盛り込むことが義務づけられるようになりました。



文科省の HP から抜粋

## 2. 生産工学部におけるキャリア教育

生産工学部では、創設時から経営能力を有した技術者の養成を基本理念の1つとし、産業界にいちばん近い学部として、学科目の中に将来の職業像を意識した生産工学系科目を設置しました。その科目の1つである生産実習はまさに現在のキャリア教育、インターンシップの先駆けであったと言えます。

生産実習は、当初8週内8単位の必修科目としてスタートしましたが、何度かのカリキュラム改訂により、実習期間、単位数も変わりました。しかし、生産実習以外の科目も設置され、生産工学系科目の充実が図られました。そして、平成19年度のカリキュラム改訂では、生産工学系科目の卒業要件単位数が10単位（必修単位数：2～8単位を含む）に増え、それと同時に、キャリアデザイン、キャリアデザイン演習、プロジェクト演習等の科目が追加されました。これにより、キャリア形成に求められる要件を段階的に学び、生産実習と合わせて、体系的に社会人基礎力を身につけることができるキャリア教育プログラムが構築されました。

この社会人基礎力は、経済産業省が推奨する企業において就労する際に基本的に求められる能力であり、就職採用試験などにおいても企業側から評価・判断される重要な要素になっています。さらに、平成25年度のカリキュラム改訂では卒業要件単位数が12単位（必修単位数：6～10単位を含む）となり、ますます充実したキャリア教育プログラムになっています。

その他、女子学生を対象として、本学部のOGを招いたキャリアカフェや他大学、他学部との協同開催によるキャリア支援講演会等も実施し、カリキュラム以外でのキャリア教育の支援も行ってい

ます。また、土木工学科では平成23年度に「土木工学科学生キャリア支援人材センター」を設立し、学科独自のキャリア教育を推進しています。

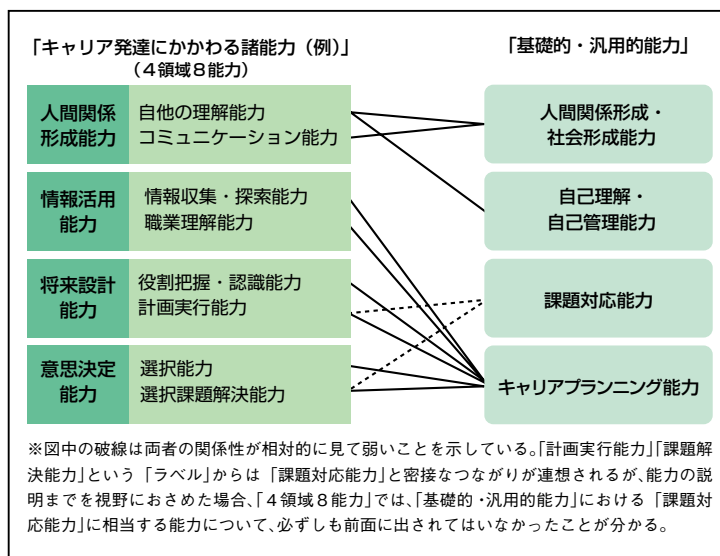
## 3. まとめ

最近の就職後の離職率の高さはキャリア教育不足が問題だと指摘もありますが、本学部卒業生の就職3年以内の離職率が低いという事実は、比較的 low 学年から将来の就職像を意識させ、上級学年でそれらを体験できるような連続的かつ体系的な本学部のキャリア教育が功を奏しているゆえんであると考えられます。

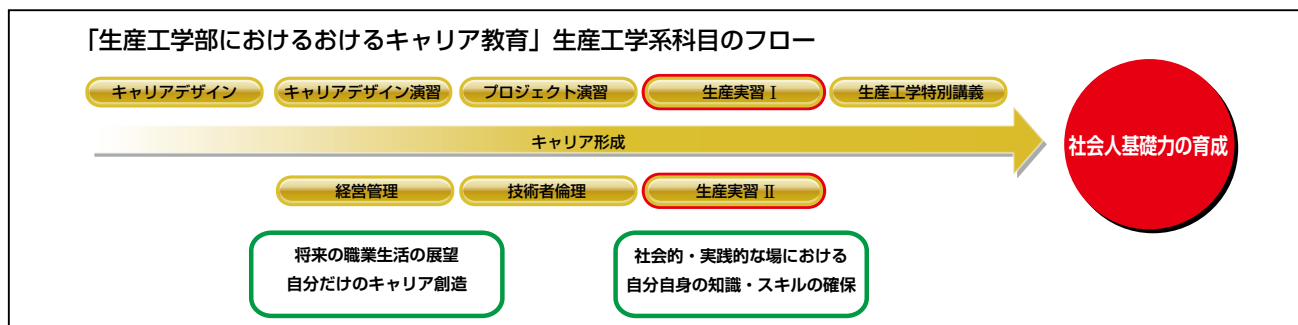
生産工学部では一人一人が自立できるような意識と能力を併せ持つ学生を育て、今後も産業界に最も近い学部として、社会に必要とされる人材を送り出すことを目指して行きます。

\*キャリア発達：社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程。[中央教育審議会答「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」平成23年1月]

(学務委員会副委員長：南澤宏明 教授)



文科省のHPから抜粋



## 座談会 「生産実習を体験して」

生産工学部では、40年以上前から必修科目として「生産実習」(インターンシップ)を実施しています。毎年1400名以上の学生が、企業や官公庁の現場で実践的な研修を体験しています。今回は、その生産実習で何を体験し、何を学べたのか、参加した4年生に自由に語ってもらいました。



<出席者(上写真左から)>

田口美里 建築工学科4年 実習先 レスコハウス(株)

林 柏楊 数理情報工学科4年 実習先(株)TBSビジョン

矢原達規 応用分子化学科4年 実習先(財)川村理化学研究所

井上翔太 機械工学科4年 実習先 日鐵住金溶接工業(株)

宇野真由美 マネジメント工学科4年 実習先(株)テクノプラン

●司会:生産実習委員会委員長 河合信明 教授(マネジメント工学科)

### ◆インターンシップ先選びは公募が多いが……

河合 まず井上君、インターンシップ先はどうやって選んだのですか。

井上 ぼくは公募推薦です。

河合 そこを選んだ理由は何ですか。

井上 授業で溶接の講義や実習を受けて興味を抱き、さらに深く学びたいと思って実習先を決めました。

河合 今住んでいる所から通えるところですか。

井上 はい、学校の近くだったので。自宅から電車で通いました。

河合 たとえば朝9時から5時まで。1日8時間。月～金で5日間。それでほしい2週間ぐらい。



建築工学科4年  
田口美里さん

井上君の場合は、家から通えたのでそこは楽だったということですね。田口さんも公募ですか。

田口 そうです。私が行ったところはハウスメーカーです。普通、住宅と聞くと木造というイメージがあると思うんですけど、その会社は、ビルなどによく使われる地

震に強いRC、鉄筋コンクリート構造で一般の住宅を造るという会社でした。

河合 そこに決めた理由は？

田口 高校の時から建築を学んできて、将来は家にかかわる仕事がしたいと思っていました。そのため、住宅メーカーを希望しましたが、公募先に住宅メーカーが1つしかなかったのでここに決め

ました。

河合 場所はどこですか。

田口 本社は神保町でした。私は、一人暮らしで学校の近くに住んでいますので、電車で通いました。

河合 9時から5時まで週5日間というのは大変でしたか？

田口 そうですね。朝7時には家を出るので、ちょっと大変でしたね。

河合 矢原君のインターンシップ先も公募ですか。選んだ理由は？

矢原 公募です。選んだきっかけは先輩方に、ここはきついけど実験の力がつくという聞いたことです。化学に関係しながらものづくりに携われる職場を希望していた自分には好都合でした。それから、自宅からすごく近かったのも理由の1つです。

河合 実験の力がつくというのは、実験を手際よくやれるとか測定が安定してくるとか、そういう意味ですか。

矢原 作業の手際がよくなるというより、

考える力がつく、ということだと思いますね。「なぜこうなるのか？」と理由を考えながら実験を行うと、すごく効率上がるんですよ。

河合 その力はつきましたか。

矢原 1カ月間なので、すごくついたかと言われれば、つらいかな(笑)。でも、こういうものは自分で鍛えていかなければならないんだという自覚ができたのは確かです。

河合 林君。TBS ビジョンを選んだ理由は？

林 ぼくは就職とはあまり関係なく考えていました。IT業界とかいろいろ探しているときに、ゼミで先生から「こういうところがある」と紹介されて、IT業界と関係ないところに行ってみるチャンスだと思い、先生と相談した結果、行けることになりました。

河合 コンテンツをやる会社。

林 そうです。

河合 日本大学生産工学部のHPも制作している会社ですね。

林 そうです。あと去年と一昨年のオープンキャンパスのビデオも制作した会社です。

### ◆さまざまなことを学べる生産実習

番組づくりに大事なものはプロの視点ではない——が印象的

河合 林君は今回の生産実習でどんなことをしましたか。生産工のHP制作のお手伝いをしたわけではない？

林 それはやっていません。本格的なビデオ制作の方ですね。撮って、編集して、最後まで。

河合 とくに印象に残ったことはありますか。

林 番組の制作が印象に残りました。制作というのは、最初の企画から、取材して、準備して、ナレーションを録音してと、最後まで参加しました。その中で、何かをやるときに、どういう視点に立



機械工学科4年  
井上 翔太さん

てばいいかということが勉強になりました。専門家の視点ではなく、普通の人間の目から見えることが一番重要だということ

です。それが一番いい経験になったと思います。

河合 生産実習は9時から5時？

林 9時から6時です。

河合 番組作りというのは24時間働いているような人たちがいるのでは？

林 TBS ビジョンの中にはそういう人はいませんでした。TBS ビジョンは、メインはWebのコンテンツ作成とかですから。

番組制作でビデオを撮ったりする人は、別の子会社なんかと連携してやっています。

河合 ということは普通のサラリーマンと同じような、昼間の勤務ですか。

林 そういうイメージでした。

**合わない、も含めて自分の適性を見極めるチャンス**

河合 宇野さんは(株)テクノプランですね。高田馬場ですか。住まいからは近い？

宇野 近くないです。

河合 じゃあ、朝7時とか6時に出発？

宇野 いいえ、出勤時間が結構遅かったの。夜も社員さんたちと同じぐらいまでやっていました。

河合 7～8時間ぐらい。

宇野 そのぐらいはしてました。

河合 宇野さんは何をやりました？

宇野 テクノプランのPC用のHPがありまして、それををスマートフォン対応にするように言われました。

河合 いきなりですか。何かイントロダクションはあったのですか。

宇野 3日間『SEについて』という本を渡され、「質問したいところと、学んだところと、

分からなかったところを、レポートに書いて提出してください」って。よく分からなかったんですけど(笑)。

河合 やってみてどうでした？

宇野 「分からないところは質問して」という社員さんの温かい言葉がありまして。ほぼ分からなかったんですけど(笑)。でも、

図書館へ行って資料を集めて、手伝ってもらいながらやるだけやり、最終日の前日に20分間のプレゼンをしました。



司会 マネジメント工学科 河合 信明 教授

河合 何か指摘されました？

宇野 はい。「プレゼンするときは、人を見て、アイコンタクトをして、大きい声を出して、内容を簡潔に」って突っ込まれました。

河合 いわゆるプレゼンの基本。

宇野 そうですね。でも、内容が薄かったようで、「次は、なぜそこがウリなのかをもっと深めてからプレゼンしたほうがいいですね」と言われました。

河合 実習を経験して自分に適性があると思いました？

宇野 結構軽い気持ちで、パソコン好きだし、ちょっとできるから、みたいな気持ちで行ったんですけど、現実はつらかったです。ずっとパソコンに向かっているのは、私には向いてないかなと。だから実体験は大事ですね。

河合 それが就職活動に結びついた？

宇野 そうですね。私は、活発なほうなので、座っているよりは動いているほうが合っているのかなと思い、プログラミング系の会社は受けずに、営業を選びました。

河合 で、内定をいただいたと。

宇野 はい。

河合 田口さん。レスコハウスではどんなことを？

田口 ほとんどがデスクワークでした。デスクワークにも2種類あって、レスコハウスが設計した住宅の偏心率がOKかをプログラムに入力して確認する作業が1つ。もう1つは、過去の部材で修正された部分をCADを使って修正したりする作業です。

そのほか、住宅展示場に行ってみ学した

# 特集 「生産工学部におけるキャリア教育」

り、自宅の建築に当たって、社員さんとお客さんが打ち合わせをしているところに立ち合わせてもらったり、そういうことをしていました。

**河合** やってみて自分に向いているとか向いていないとか、ありましたか。

**田口** 私が思い描いていた住宅メーカーの仕事は、住宅展示場で実際にお客さんと会っている話をして、そして自分で設計するというものでした。そのため、ずっとパソコンを見ながらのデスクワークというのは自分がやりたい仕事ではないと思いました。

**河合** 就職活動にそれが影響した？

**田口** 建築だと、営業、開発、施工管理などいろいろ職種があるんですけど、その中で営業とかお客さんと接する機会の多い会社を中心に、就職活動はしていました。

## 英語は研究現場のマストツールと実感

**河合** 矢原君は、指導していただいた方が日本人じゃなかったそうですね。

**矢原** インドの方でしたね。

**河合** コミュニケーションは英語？

**矢原** はい。ただ、自分は英語があまりできないので、まずは言いたいことの単語を調べて、あとはジェスチャーで伝えて(笑)。インドの方も日本語は話せませんからジェスチャーで。合っていたら「OK、OK」って(笑)。

**河合** 実験が、それでなんとかなる？

**矢原** 実験はフローチャートといって簡単な言葉で工程表みたいなものを作ってやりますし、大学で一通り習って予備知識がありますから、あとは単語を調べて、身振り手振り。それで何とかになりました(笑)。

**河合** やはりコミュニケーション・ツールとして英語は必要でしょうね。

**矢原** それは痛感しました。

## 魅力的な表情をしていた現場の技術者が印象的

**河合** 井上君は溶接ですか。何をやったのですか。

**井上** 製品開発部製品開発グループでいく

つか実習がありました。まず、知的財産権について学びました。知的財産権というのは、自分の発明や、開発したものを財産として保護するための特許権とか、商標権などの権利のことです。実際に灰皿についての特許明細書という書類を作成して、その



マネジメント工学科4年  
宇野 真由美さん

添削をしてもらったり、元の書類と比較検討した上で再度提出したりしました。

**河合** 指導する方は技術者でしたか。

**井上** 特許部の技術者の方でした。

**河合** いわゆる出願明細書で、願書、明細書、要約書及び図面を全部作った？

**井上** その縮小した感じのものです。特許明

細書なんかも見せていただきました。結構何枚にもなる明細書だったので、あぁ、こんなふうにするんだとすごく驚きました。

**河合** とくに印象に残ったことはありますか。

**井上** こういう知的財産グループの方がいることによって、自分の仕事を守られているんだなと感じました。あと、特許として公にすることで、さらによりよい品質のものを作ることができるので、それも素晴らしいと思いました。

**河合** 溶接の実習のほうは？

**井上** そちらは製品開発部の方と一っしょに工場の見学をしました。

**河合** それは測定ですか。

**井上** 測定がメインでした。測定自体は地味な作業ですけど、そういう小さい努力がよりよい製品を生んでいるということが分かり、素晴らしい体験ができたと思います。

実際の溶接の現場も見学しました。技術者の方は、一見すると怖そうな感じでしたが、溶接のお話を伺った際にすごくすてき

な表情をされていたことが印象に残っています。私も、そんなすてきな表情ができる仕事につけばいいなと思いました。

## ◆アフター5の楽しさも、そして仕事の厳しさも

**河合** 勤務時間以外のコミュニケーションなどはどうでした？

**宇野** 2日目に、社長さんと担当社員さんと、食事に行く機会がありました。「ご飯に行こう」って言われて、夜ご飯かなと思って、ちょっとウキウキしたんですけど、昼ご飯でした(笑)。

ちゃんとしたレストランでしたけど、食事の間中、どういう職種に興味があるのとか、ずっと質問されて。社長さんは質問したらあとは「うん、うん」と聞きながら食べているんですけど、こっちはずっと答えているから、全然食べられませんでした(笑)。

**田口** 私は、飲みに行きました。新しい派遣さんと私の歓迎会を兼ねて、みたいな感じで。若い人から年配の方まで年齢層も幅広いんですけど、恋愛トークとかもしたりして、普通に楽しく飲みました。

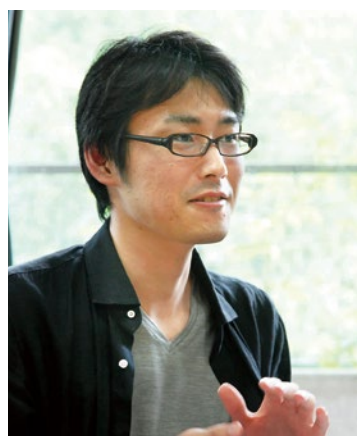
仕事中はみんな集中しているので、なかなか話しかけづらかったりしますが、飲みに行った翌日からは、仕事中でも、何か頼みごとや質問が気軽にできるようになりました。

**矢原** 私は、逆にお昼ご飯は必ず職員のどなたかといっしょに食べました。担当のインドの方や中国の方、韓国の方など、海外の人が多いので、お昼やアフター5にコミュニケーションをとっておかないと、孤立してしまいそうな環境だったので。

**河合** そういうことも体験できたわけですね。

**矢原** はい。なので、これからは英語をちゃんと勉強して、自分から話題を提供できるようにならないとダメだと思いましたね。

自分はピアノを習っていたことがあって、実習先で、「Jポップだと通じないですけど、クラシックだけはどこの国も大丈夫



応用分子化学科4年  
矢原 達規さん



なんです。だからクラシックの話題でなんとかコミュニケーションが取れました。国際化が進んでいるところだと、こういうのも必要だなというのが分かりました。

**林** チームの人はみんな優しいんですけど、ミーティングルームに入ると、みんな完全に変わりますね。すごく厳しくなって、ああ、やばい、全然違う人だって思うような(笑)。一番上の上司が「なんで、なんで。これやり直し！」ってどンドン突っ込んで。ディレクターなんか泣きそうな感じでした(笑)。で、ミーティングルームから出ると、またみんな優しくなって……。こういうふうに仕事は厳しくやっているほうが結果が出るんだろうなと、自分は感じました。

#### ◆行ってよかった生産実習。でも、疑問に思うことも…

**河合** 生産実習に行った結果、あらためて思うことはありますか。

**井上** もともとぼくは設計と開発の仕事に携わりたいと思っていたんですけど、インターンシップ先が開発部門、研究部門だったので、その経験を通して、やっぱりこの分野に進みたいなのを確認しました。さらに進路が明確になりましたね。

**矢原** 学生と会社員とは全然意識が違うんだなというのが一番強く印象に残っています。これから自分がどういう姿勢で、どういう考え方で就職に望んでいかなければならないのかというのが理解できたので、生産実習というのはすごくためになったと思います。

**林** いろいろ体験できて良かったと思います。撮影現場に行くことができなかったのは残念でしたが、体験としては良かったと思います。もし機会があればテレビの制作現場に行きたいと思います。

**田口** 就職活動の参考にもなったので、そこはすごく勉強になったと思います。でも、建築のほかの人のインターンシップの話を知ると、たとえば設計事務所で、期間中、毎日同じ模型作りをやっていた、とか。模型作りって雑用みたいなもので、それだとして何を勉強しに行くんだろうっていう感じで。ちょっと違うのかなという感じもしました。

私が行ったところはいろいろやらせてもらって勉強になったので、当たりだったと思います(笑)。

#### 複数の会社で実習したいのに……

**河合** 事前学習や授業として設置している生産実習科目は役に立ちましたか。

**宇野** キャリアデザインって、2年生の前期でしたっけ。ちょっと早すぎると思います。3年生でもやってほしいと思います。これがすごく重要だと感じたのは3年生の後半ぐらいでした。

**河合** 皆さんの意識が低いとき、そのプログラムを強制的に受けさせられて、インターンシップ

やなんだかんだで苦労して、その頃にもう一回受けたいねっていうことかな(笑)。

**宇野** 2単位ですよ、生産実習って。

**井上** 生産実習Ⅱまで行くと4単位。

**宇野** 私の場合、1週間、1週間で2カ所行きたかったのに。なぜ、1カ所で期間は10日間なのですか？

**河合** 極論するとワンデーを14社やってもしょうがないからです。

たとえば3日間のインターンシップなんというのがあります。だけど、みんな

わーっと集まって、ある課題をやって、それで終わり。さっき、おっしゃっていたアフター5だとかお昼ご飯とか、そういうのは体験できないでしょうね。

**井上** そういうのは時間をある程度かけて信頼を深めないは無理でしょう。

**河合** だから継続してある程度の時間が必要なんです。土日を含めて2週間ぐらいの時間があるからこそ職業体験ができるんです。1社ごとのワンデーをやっても、会社訪問みたいなもので(笑)。

**宇野** 1日は言いませんが(笑)。



数理工学学科4年  
林 柏楊さん

**井上** 1週間だと見えないところが2週間だと見えてくるということもあるし、やっぱり7日間がいいという意見もありますよね。

**宇野** 学科によって違うと思う。

**井上** 人によっても違うわけで、もっと柔軟性を持たせてもいいと思いますね。

**河合** 今後の課題か

もしれませんね。

そういうことも含めて職業体験は重要なんです。この生産実習を通して自分の適性を見極め、自分に向けた職業・職種に就職するというのは重要なことです。かつては、大学生の3割が3年以内に辞めると言われていました。生産工学部ではそれが1割台ですから、生産実習がキャリア形成に役立っていることは間違いないと思います。

今日は貴重なお話をありがとうございました。



# 2012年就職状況の概要

2008年秋のリーマンショックを境に、求人倍率は2009年1.62倍、2010年1.28倍、2011年1.23倍と、年々低下してきましたが、2012年は若干持ち直し1.27倍となりました。しかし、この数値は全国の民間企業の求人数が前年に比べ1.1%減(6000人)であったのに対して、学生の就職希望者が4.5%減(1万人)となったことによるもので、決して就職状況が好転したわけではありません。同時に厚生労働省調査によれば10月時点の内定率は、2009年は62.5%、2010年は57.6%、そして2011年は若干持ち直したものの59.9%と過去2番目の低さとなっています。2012年は63.1%と回復の兆しが見えてきましたが、それでも「就職氷河期」と同時期の最低ラインである60%を若干上回った程度です。

生産工学部では2012年度、4年前に新設された環境安全工学科と創生デザイン学科で初めての卒業生を送り出しました。完成初年度として、心配されていた2学科の就職状況ですがほかの学科とほぼ同じでした。学部全体の就職率は91.4%で、2011年の90.8%より0.6%の増加となりました。また大学院の就職率も97.4%で0.3%の増加となりました。

就職者の主な産業分類別のパーセンテージは、建設業20.7%、製造業15.7%、情報通信業9.0%、運輸業1.7%、卸・小売業11.2%、不動産業2.5%、金融業・保険業1.0%、サービス業13.5%、国家・地方公務員は2.9%となっており、ほぼ2011年度と同様でした。

生産工学部では、最近の厳しい就職状況を認識し、幾つかの就職支援を行っています。2012年度に行った主な就職支援活動は以下の通りです。

## ●学科就職ガイダンス(9月下旬から10月初旬)

学部3年次生および大学院1年次生を対象に、学科および専攻ごとにその特徴を生かしたガイダンスを実施しています。ここでは、就職活動の一助となる「就職の手引き」及び「就職のための筆記試験対策ドリル」を配布し指導を行いました。

## ●SPI模擬試験(9月下旬 全額学部負担)

学部3年次就職希望者を対象に、全国で多数の企業が導入しているSPI適性検査対策として、一斉模擬試験および対策講座を昨年度から開始しました。一斉模擬試験は2日間にわたって行われ、1122名が受験しました。

## ●SPI対策講座(10月下旬より 一部学部負担)

一斉模擬試験の受験者のうち希望者のみ、模擬試験の結果から対策講座のクラスを編成し、計4回の対策講座を行いました。受講者は379名でした。

## ●就職対策講座(10月下旬より 全額学部負担)

学部3年次生および大学院1年次生を対象に、4つの講座

を実施しました。筆記試験講座では890名が参加、自己分析講座では896名、エントリーシート講座では1003名、面接講座では740名の参加でした。

## ●生産工学部就職セミナー(2月5日～8日)

学部3年次生および大学院1年次生を対象とし、本学部から採用実績がある企業の人事採用担当者を招き、4日間開催しました。参加企業は374社で昨年より49社の増加でした。参加学生は本学部及び他学部合わせて延べ2546名で、昨年より185名の増加でした。

なお、セミナー参加企業の概要については、従来の冊子(「日本大学生産工学部 就職セミナー」)に加えてポータルサイトにも掲載し、企業研究等の利便性を高めました。

## ●インターネットによる就職情報提供(NU就職ナビ)

平成18年度から稼働したNU就職ナビは、時と場所を選ばず利用可能なWebシステムで、本学設置の同システムは就職データの一元化の役割を果たし、企業情報(16万件)、求人情報(1万件)、就職活動報告書、OB・OG情報(33万件)、就職行事情報等、多彩な情報が検索・利用できます。また、Webシステムにより各種届出が可能となり、希望業界・職種の求人情報をパソコン・携帯電話等へ送信するサービスもその特徴の一つです。基本的に3年次生から登録・利用することになりますが、低学年からの利用も可能です。



2013年度の就職状況はわずかながら改善傾向にあり、すでに内定者も出ていますが、まだ楽観できる状況ではありません。ご父母様におかれましては、就職活動中、これから就職活動を考えるご子女とは話し合いの機会を多くし、意思の疎通を図っていただきたいと思います。大学受験でも高校2年生ごろから実際の行動を開始したように、就職に対する準備も早めに心がけ、ご子女の能力や性格・意思にあった企業をともに選択していただきたいと思います。また、大学院への進学も考慮していただきたいと思います。より深い専門知識の習得により、就職率は学部より高くなっています。

就職に関する面談希望は卒業研究指導教員または各学科就職指導委員へ気軽にお問い合わせいたします。

## 機械工学科

初年次ゼミは、新入生を受講対象とした大学導入授業です。具体的には、自校教育として大学、学部、学科の歴史や特徴を学び、また所属学科の専門教育への導入、学修への目的意識の明確化等を目的としています。機械工学科では、ものづくりのセンスと実践力を養い、産業の基盤を支える機械や乗り物を創造できる人材を社会に輩出すること

## 初年次ゼミがスタート！

を使命と考えております。そこで、初年次ゼミの後半では、ものづくり実践の初期段階として、設定された飛行機能を満たす紙飛行機製作を1年生全員が行います。最終週には、学生が独自に製作した紙飛行機の飛行競技会を行います。

紙飛行機が完成するまでの過程で、ものづくりの難しさや楽しさを学生たちが実感することを期待しています。



## 学生 14 名が CAD 資格認定試験に合格！

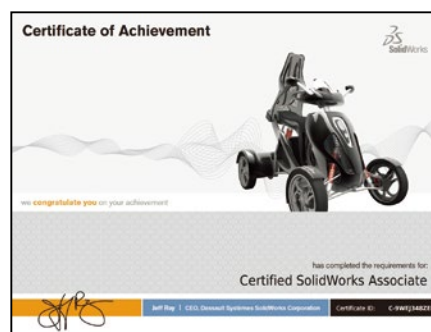
学生 14 名(2年生 10 名、3年生 2 名、4年 1 名、大学院生 1 名)が CSWA (Certified SolidWorks Associate) 認定試験に合格しました。

CSWA は、SolidWorks 社が 3D-CAD 設計の基礎、およびエンジニアリング手法や原則を理解し、実践的知識を有することを認定する資格です。

機械工学科では、3D-CAD ソフトで

ある SolidWorks を 1 年次の 3 次元グラフィックス演習、3 年次の CAD 演習で使用しています。資格認定に挑戦した学生たちは、これらの演習科目に加えて小幡准教授による 3 カ月(週 1 回)の講習会を経てみごとに合格しました。

合格者の皆さん、おめでとうございます。今後の活躍を期待しています。



## 電気電子工学科

電気電子工学科の鶴見智成君は、平成 24 年 9 に実施された第三種電気主任技術者試験に、大窪崇宏君は、平成 25 年 1 月に実施された無線従事者国家試験の第一級陸上無線技術士にそれぞれみごと、合格しました。

電気主任技術者は、経済産業省が管轄する国家資格の 1 つで、発電所や変電所、工場、ビルなどの受電設備や配線などの電気設備の保安監督者として置くことが法律で義務づけられている技術責任者です。そのため、電気主任技術者は社会的評価が非常に高い資格です。

電気主任技術者は取り扱うことが出来る電圧によって第一種から第三種までの 3 種類の資格があります。平成 24 年度の第三種電気主任技術者試験の合格率は 5.9 % と低く、難関の資格です。

第一級陸上無線技術士は、総務省が

## 在校生が第三種電気主任技術者試験と第一級陸上無線技術士試験に合格

管轄している無線従事者免許の 1 つで、第一級総合無線通信士と並んで無線従事者免許の最高峰の資格です。

無線通信に用いる設備の技術操作を行うための資格であり、特に放送局、通信事業者などの無線局の事業者にお

いては必置資格です。試験の難易度は高く、現役の学生が合格することは稀です。

鶴見智成君と大窪崇宏君は、現在本学大学院前期課程電気電子工学専攻 1 年生として勉学に励んでいます。



左から鶴見智成君と大窪崇宏君

## 土木工学科

未曾有の震災から早2年と数カ月が過ぎましたが、被災された方々の一日も早い復興と健康を願い、また復興・復旧にご尽力される技術者、卒業生諸兄のご活躍を心からお祈りいたします。

### ◎震災を乗り越えて未来を拓く

土木・建設産業は被災した企業も多いなか、発災直後から現在まで、インフラ復旧などの中心的担い手として、その技術力を遺憾なく発揮してきました。そして、インフラ施設の重要性とともに、これを調査、計画、設計、施工、管理する土木技術者の役割が再認識されたように感じています。

社会基盤施設の維持管理時代や環境低負荷型の社会システムへの対応、災害に強い国土づくりなど、土木・建設産業に対するニーズは多様化し、かつ高度化しています。震災を乗り越え、「未来を拓く」担い手として、土木技術者

## 「土木技術者の社会的役割と土木工学科の技術者育成」について

はその役割を果たしていかなければなりません。お陰さまで、就職内定率は3年連続100%を達成し、今年度も企業、役所から例年を上回る活発な求人を頂いています。



PRポスターコンクール

### ◎技術者としての将来を楽しみにする教育

土木工学科では、「技術者としての将来を楽しみにする」教育システムの構築に取り組んでいます。カリキュラム全体を通じて「キャリアデザイン教育」と「エンジニアリングデザイン教育」の体系化を進めており、全学年を対象とした授



ブリッジコンテスト

業改善に着手しています。なかでも、初年次導入教育では、土木のPRポスターコンテスト、ブリッジコンテスト、ソイルタワーコンテストを開催し、失敗・成功体験を通じた学生の主体性喚起とグループワークによるコミュニケーション能力の養成に期待しています。

学生がものづくりに真剣勝負し、失敗の悔しさ、成功の喜びを表現する姿に確かな手応えを感じています。

今後も、技術者として日本の将来を担う学生への手助けとなるべく、さらなる改善検討を重ねていきたいと考えています。

## 建築工学科

平成25年3月8・9・10日に千葉建築士会等の建築関連4団体が主催する第25回千葉県建築学生賞の展示が千葉市の「きぼーる」にて行われ、その会場にて3月9日に公開審査が行われた。これは千葉県下の大学・高校の卒業設計コンクールで、大学では6大学10学科の17作品が出展された。

日大生産工学部からは桜建賞の藤枝拓弥君「木材乾燥の世界で」と橋聡子さん「つむぐーまちと大学のあいだに」の2人が出展した。

審査の結果、橋聡子さんが最優秀賞に輝き、6月の日本建築家協会(JIA)主催「全国学生卒業設計コンクール」への千葉県の代表として推薦される。

橋聡子さんの卒業設計である「つむぐーまちと大学のあいだに」は、生産工学部を敷地とし、まちと東邦大学一日大生産工学部一東邦高校の境界にラー

## 第25回千葉県建築学生賞 大学・高校の卒業設計コンクールで、橋聡子さんが最優秀賞

ニングセンターをつくり、地域の縮小しつつある図書館と大学の研究施設や図書館の機能を併せ持つライブラリープロムナードを提案したものである。さまざまな光と影の関係を伴う大小の空間が、いろいろな交流の場を生んでいる。

講評では“…細部への眼差しも配慮され、まさに都市の「街角ブラウジング」にリアリティーを感じる。何よりも、作

者の意図と想像を超えて、実はこのパナキュラーな「学びの場」が、ユニバーサルな世界標準モデルの「学びの場」への進化を示唆している。提案の発展性の視点から秀逸である。”と評価された。



(写真提供: 千葉建築士会)



## 応用分子化学科

平成 25 年 4 月 20 日と 21 日の両日、1泊2日で、春雪舞うあいにくの天気ではありましたが、毎年恒例の新生オリエンテーションが行われました。

初日には宿泊先である日本大学軽井沢研修所でグループミーティングを行いました。学生が自己紹介をした後、大



昼食休憩時のひとこま

## 恒例の新生オリエンテーション 新カリキュラム“初年次ゼミ”での取り組み

学生生活の疑問や不安、学習の仕方などについて教員がアドバイスをしながら、学生間だけでなく学生と教員の交流を深めました。第2日目には、講師の説明の下、手びねりという簡単な陶芸実習を行い、学生自らの感性で造形する“ものづくり”の楽しさを経験しました。

平成 25 年度より新カリキュラムが始まりました。専門知識を習得する上で根幹となる基礎的な共通科目、共通科目と専門科目の橋渡しの連携科目が設置され、より専門科目を学ぶための基礎が充実しました。連携科

目の中には今年度から開講された“初年次ゼミ”があり、教養・基礎科学系の教員の助けを借りながら本学科の全教員が携わり、まず大学入学から卒業までの全体像をイメージすることで学修意識を明確にすることを目的に、日本大学生産工学部の歴史や特徴、本学で学ぶことの意義についての講義が行われました。さらに、この科目ではレポートの書き方やまとめ方などについての少人数指導が行われています。学んだ内容を実践する形で、さまざまなテーマについて学生が個々にレポートをまとめた後、さらに数名の学生で、共通のテーマを協同して取り組み、グループスキルを習得します。このように初年次ゼミを通じて、科学や工学に関連した内容の“読み”、“書き”、“話し”に慣れてもらうよう取り組んでいます。

## マネジメント工学科

平成 25 年度、マネジメント工学科は新たに「フードマネジメントコース」を開設し、「ビジネスマネジメントコース」「経営システムコース」と合わせて 3 コースとなりました。

我が国の食品産業は、農産物生産から食品製造・流通業及びフードサービス産業など年間 100 兆円規模となる巨大産業です。この分野では、安全で高品質の食品を消費者に提供するための適正な品質管理や効率的な生産工程管理、商品開発、サービス・供給体制の改善、さらに世界に誇る和食文化の提供をめざしたグローバル展開が求められています。

フードマネジメントコースでは、フードビジネスを視野にマネジメント工学理論、手法などの考え方を通して問題解決を見出していく方法論を学習

## 「フードマネジメントコース」を開設し 3 コースとなりました

し、さらに実践教育によってグローバルな視点からの経営スタッフ、あるいはエンジニアとして必要となる企画力、問題解決能力、マネジメント能力を有する人材を育成することを目指しております。

具体的なフードビジネスのコースを加えて、マネジメント工学科では企業の生産活動を想定して、

①顧客が求める製品やサービスを予測し、それらを安いコストで安全に作る・提供するためにはどうしたらよいかを考え、

②その過程でいかにムリ、ムダ、ムラを省いて効率性を高めるかを工夫し、

③それを実現するための最適なシステム（仕組み）を設計し運用することを学んでいきます。

新コースの設置とも関連して教員の充実にも努めており、本年 4 月付けにて、五十部教授、鈴木准教授、三友教授、村田（康）准教授の 4 名の教員が着任しました。

### フードサービスマネジメント 専門技術者

商品開発、サービス・供給体制の改善から  
和食文化のグローバル展開を担う経営者・管理者

#### 流通部門

- フードサービス
- 商品企画開発部門
- 海外、チェーンビジネス



## 数理情報工学科

2012年3月から2013年2月まで長期派遣研究員としてカナダのオンタリオ州にあるウォータールー大学 (University of Waterloo) に滞在しました。ウォータールー大学は、オンタリオ州の南西部に位置し、トロントまで100kmほどのところにあります。スマートフォンのBlackBerryで知られるリサーチ・イン・モーション社 (Research In Motion) が大学の付近に拠点を構えています。

ウォータールー大学は、1957年に開校した州立大学であり、修業年数はほかの大学よりも1年長い5年となっています。これは、16週間の企業研修を複数回行うコープ (co-operative education) と呼ばれるインターンシップに似たプログラムを実施しているからです。ウォータールー大学のコープ・プログラムの規模は世界最大であり、現在では、ウォータールー大学のコープ・プ

## カナダ ウォータールー大学 長期派遣研究員 レポート ー数理情報工学科 准教授 柝窪孝也

ログラムを基にしたプログラムが、カナダの100以上の大学で実施されています。

今回の滞在では、工学部の電子情報工学科 (Department of Electrical and Computer Engineering) のEn-hui Yang教授にホストになって頂きました。

Yang教授は、文法圧縮法 (grammar-based codes) と呼ばれるデータ圧縮方法を提案したことで広く知られています。文法圧縮法とは、圧縮対象の文字列に対して文脈自由文法 (context-free grammar) を生成して圧縮する方式であり、Lempel-Zivアルゴリズムなどの従来の圧縮アルゴリズムを含む広い概念です。与えられた文字列を導出する最小サイズの文脈自由文法を求める最適化問題はNP困難であることが知られていますが、現在では、多数の効率の良い文法圧縮アルゴリズムが提案されて

います。Yang教授とは、ランダムアクセス可能な文法圧縮法のアルゴリズムについての研究を進めました。また、滞在中に数学部コンピュータ科学科のDouglas Stinson教授とも秘密分散法に関する共同研究を行いました。

最後になりますが、1年間の長期に渡る留学の機会を与えて頂いた日本大学の関係者の皆様、また、カナダ滞在中にいろいろとサポートして頂いた数理情報工学科の先生方並びに事務の皆様にご感謝申し上げます。



## 環境安全工学科

平成25年度環境安全工学科は創設5年目を迎え、この4月から新築の40号館環境安全工学科・創生デザイン学科棟に引っ越した。40号館の共用で、学科創設以来、初めてすべての教員が1つの建物で教育・研究を行えるようになった。

新築の40号館は床面積9570m<sup>2</sup>の7階建てで、環境安全工学科は1、2、3、7階を使用している。1階に床面積228m<sup>2</sup>の共通大型実験室、学生実験に使用する床面積273m<sup>2</sup>の環境安全工学実験室Aの他、機器分析室、恒温恒湿室、材料加工室などがある。2階に2学科共通の事務室、会議室、それぞれ2つの小会議室と就職資料室がある。これ以外は環境安全工学科が使用し、1階と同規模の学生実験用の環境安全工学実験室B、主に卒業研究で使用する床面積が各84m<sup>2</sup>の環境安全工

## 5年目を迎えた環境安全工学科

学実験室1~4が、3階に3名の教員の研究室とゼミ室の計6部屋、共通研究室、演習室の他、卒業研究で使用する床面積が各91m<sup>2</sup>の環境安全工学実験室5~12が配置されている。7階はほぼ教員のスペースとして、床面積が各28m<sup>2</sup>の環境安全実験室13~15、12名の教員の研究室とゼミ室の計21室がある。また40号館各階には、学生が自由に勉強できる、明るい採光のコミュニティスペースが設けられている。

環境安全工学科では他学科と異なり、環境安全工学実験室1~15を共同運用することになっている。すなわち、環境安全工学科における実験室の運用は、使用する目的別として、既存学科のような教員ごととはしていない。このような実験室の共同運用方針は、環境安全工学科教員の専門分野が他学科と異なり、機械、建設、応用化学と多岐にわたっ



ていることから、学際的な共同研究を推進し進めやすくするための方策でもある。

この秋には共通大型実験室へ、他大学では保有していない、環境総合実験システム (仮称) を導入し、さらなる学際的研究をも開始する予定である。

なお、環境安全工学科では教員の充実も進めている。教員体制は、本年4月付けにて東京電機大学より武村助教が着任され、10月には豊田中研より秋濱教授が就任される予定で、17名となる。

## 創生デザイン学科

### 「心臓と意思」というテーマで 助教の木下先生が個展を開きました

2013年6月3日～8日まで銀座1丁目にあるギャラリー「SOL」にて、助教の木下先生が個展を開きました。個展のテーマは、「心臓と意思」で、脳の意図とは関係なく歩み続ける心臓に意志を持たせ、感情の表れを、鉄や真鍮製の鋳や植物で表現を試みていました。

真鍮の鋳物で制作された作品は花器にもなっています。花器と心臓に、美しいものに生命を淡々と吹き込む装置という共通点を見出し、金属で表現していました。

木下先生の専門分野は鍛金で、金属の加工技術を用いてさまざまな工業製品や美術作品をデザインし制作しています。鉄を熱し、赤く柔らかい状態でたたいているので、鍛造で制作された作品は硬く重いのですが、表情はとても柔らかいです。

「僕の学生時代は先生方の背中をみて学んでいました。自分も学生と共に悩み、制作することで研究活動を共に成長させてゆきたいです。また、今回の個展のように自身の作品を世の中に発表し続けることにより、研究や表現活動に社会との接点を持ち、デザインと芸術活動をさまざまな角度から考え、研究活動の幅を広げることで確かな知識や技術を学生たちに伝えていきたいです。」と今後の抱負を熱く語っていました。



個展の会場風景



会場にかけつけた木下研究室メンバーと共に

## 平成24年度学位取得者一覧

次の方々が平成24年度に博士の学位を取得されました。今後のご活躍を期待しております。

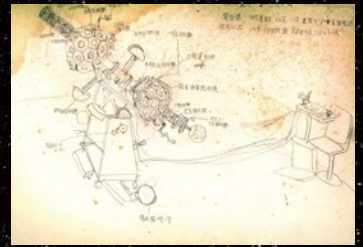
### 課程修了によるもの

専攻	学位	氏名	論文題目	学位授与大学	授与年月日
機械工学専攻	博士(工学)	背尾 直彦	回転工具を用いた摩擦接合技術に関する研究	日本大学	平成25年 3月25日
機械工学専攻	博士(工学)	柳澤 一機	NIRSを用いたブレイン・コンピュータ・インターフェースの開発と応用に関する研究	日本大学	平成25年 3月25日
応用分子化学専攻	博士(工学)	木村 悠二	酸化還元酵素とキトサンを用いた環境汚染物質の除去	日本大学	平成25年 3月25日
数理情報工学専攻	博士(工学)	高橋 亜佑美	ハイブリッドSEAを用いた自動車の高周波騒音解析手法に関する研究	日本大学	平成25年 3月25日

### 論文提出によるもの

専攻	学位	氏名	論文題目	学位授与大学	授与年月日
土木工学専攻	博士(工学)	大木 高公	緑化のり面の景観評価に関する研究	日本大学	平成24年 12月3日
建築工学専攻	博士(工学)	湯澤 豊	観測記録に基づく長周期地震動の地域危険度評価	日本大学	平成24年 12月3日
応用分子化学専攻	博士(工学)	高橋 大輔	ポリペプチドとアゾ色素および水溶性高分子との複合体形成と機能に関する研究	日本大学	平成24年 12月3日
マネジメント工学専攻	博士(工学)	鈴木 邦成	廃タイヤのリバースロジスティクスの効率化に関する研究	日本大学	平成24年 12月3日
機械工学専攻	博士(工学)	坂田 憲泰	CFRP製圧力容器の破裂圧力向上とその最適構造設計	日本大学	平成25年 3月11日
応用分子化学専攻	博士(工学)	小森谷 友絵	高感度CRP測定試薬の研究開発とその臨床的意義	日本大学	平成25年 3月11日

学生が中心のキャンパスをめざして、教職員はもちろんのこと、多くの人々がさまざまなかたちで学生をバックアップしている生産工学部。その中でも一段と心強いサポートをしてくださる卒業生の方々を紹介するのが、このコーナーです。今回はプラネタリウム・クリエイターとしてワールドワイドに活躍中の大平貴之さんにご登場いただきました。



小学生のとき描いた設計図



今は厳しいがチャンスも多い時代。  
厳しさよりチャンスに目を向け、  
自分が面白いと  
思うことをやってほしい。

プラネタリウム・クリエイター 有限会社大平技研 代表取締役 **大平貴之 氏**



■最初のプラネタリウムは、紙に夜光塗料を塗っただけ

夜空に興味を向いた理由は、アニメの『宇宙戦艦ヤマト』が好きだったからかな。はっきり覚えていませんが、そんなことだったような気がします。

プラネタリウムをつくり始めたのは小学4年生のときです。最初は丸く切った紙に夜光塗料を塗って部屋に貼って見たんです。それがだんだん部屋中に広がり、そのうちボール紙に穴を開けたピンホール式に。そんな感じでしたね。

中学、高校ではアニメ制作、ロケット製作など、スイッチが切り替わるように興味の対象がいろいろ代わりました。今振り返ればそういった興味が最終的にプラネタリウムに集約されたということかもしれません。

結局のところ、夜空に興味を持って、「天文学」という学問ではなく、むしろ「自分で星をつくる」ことにロマンを感じたわけです。思えば、子どものころから自然に「ものをつくる」ことに慣れ親しんでいましたから、これは当然のことでしょうね。

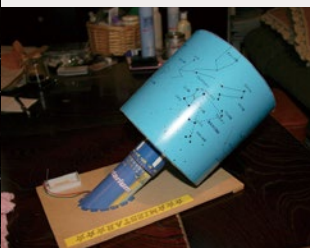


■プラネタリウムづくりに没頭していた学生時代

とにかくプラネタリウムをつくろうと考えてましたから、大学は「ものづくり・技術系」という方向が自分の中で見えていました。高校が日大二高で、付属校からエスカレーターでいえば日大生産工学部。なんとなくそんな感じで、入りました。

大学時代はプラネタリウムづくりを中心に生活が回っていました。とくに1、2年のときはゼミもありませんし、学校





小学5年で作ったピンホール式



製作に夢中だった高校時代



大学生のとき作ったロケットの発射

で講義を聴いているよりも自宅で作業をしているほうが多かったような気がします。

ただ、機械工学科にある機械工場の先生には部品づくりの相談にのっていただいたり、小さな部品をつくっていたりしていましたね。

そうやって当時つくり上げたのが「アストロライナー」です。アマチュアとはいえ、企業がつくる大型のプラネタリウムに匹敵するレベルを目指しました。出来上がってみると、自分では細かい部分の完成度など「なかなか思うようにはいかないなあ」と感じていましたが、それでも周りからは、個人では難しいことを実現したという点で大変驚かれました。

「アストロライナー」が評価されたことで、その後は大学側もいろいろ協力してくれました。ゼミでは卒業研究に「プラネタリウムの制御」というテーマを選ばせてもらいましたし、学園祭でプラネタリウムの上映会をするのでも、個人の上映会なのに体育館を空けてもらった。いろいろ便宜を図ってもらったという自覚がありますね。



## ■知恵と工夫次第で大きな地位を築ける時代

そんなふうにはぐらが学生だったころに比べれば、今は世の中が窮屈に

なったり、若い人が経済的に厳しかったり、大変な時代かもしれません。でも、逆にインターネットやネットワークを使って、若い人や小さい会社など昔だったらつまはじきにされていたような存在が、知恵と工夫次第で大きな地位を簡単に築ける時代です。下克上のようなことがどの分野でも日常茶飯に起きています。

厳しいけどチャンスも多い。「夢を信じて」などと軽薄なことを言うつもりはありませんが、厳しさよりチャンスのほうに目を向け、自分が面白いと思うことをやってほしいと思いますね。



## ■「小規模なもの」と「とてつもなく大きなもの」

今現在、ほくには2つの夢があります。まず、これは夢というより直近の目標ですが、どこどこ科学館などにあるような大型プラネタリウムではなく、もう少し小規模の、むしろパーソナルに楽しめるようなプラネタリウムをもっといろいろつくりたいですね。

もう1つ。これは遠大な夢ですが、とてつもなく大きな、それこそ直径1kmぐらいのプラネタリウムをつくってみたい。それは、普通に座席を並べて見るプラネタリウムではなく、テーマパークとかそういったものの天井を覆うような



形になるでしょうね。投射自体は技術的に可能で問題なくできますが、それだけ大きな天井を造るというのが難しいのかもしれない。

そういうプロジェクトが立ち上がるかどうか、また仮にそういうプロジェクトがスタートしても、ほくがそれに参加できるかどうかという高い2つの壁があります。夢だけ語っていて、実際にそれをやるのはほかの人かもしれませんが(笑)。



MEGASTAR-IIA のフルシステム

### 【PROFILE】 大平 貴之 (おおひら たかゆき)

昭和45(1970)年、神奈川県生まれ。43歳。小学生のころからプラネタリウムづくりを始め、生産工学部機械工学科在学中にアマチュアとしては前代未聞のレンズ投影式プラネタリウム「アストロライナー」の開発に成功。ソニー(株)に入社後もプラネタリウム製作にける情熱は冷めることがなく、1998年には当時世界最高の170万個(従来機の100倍以上)の星を投影できる軽量移動式プラネタリウム「アストロライナー2(後のMEGASTAR)」を完成させた。2003年ソニー退社。2005年3月有限会社大平技研を設立。家庭用プラネタリウム「ホームスター」(セガトイズと共同開発)や驚異的な投影星数2200万個を誇る「SUPER MEGASTAR II」など、大小さまざまなプラネタリウムを開発・製作するかたわら、MEGASTARを用いて自ら全国各地で投影活動を行う。



### 《取材後記》

大学は付属校上がりでなんとなく日大生産工学部。大学院も親に勧められてなんとなく。ソニーに就職したのもなんとなく企業イメージが良くて……。『思えばプラネタリウムづくり以外の人生の選択は『なんとなく』ばかり』とおっしゃる大平さん。逆に言えばプラネタリウム・クリエイターへの道だけはまっしぐらということ。なるほど、プラネタリウムを語る大平さんの生き生きとした表情が何とも印象的でした。

# 「生産工学部創設 60 周年記念事業募金」寄付者ご芳名

創設 60 周年記念事業募金にご賛同頂き心から感謝申し上げます。

平成 24 年 6 月から平成 25 年 5 月までにご寄付を頂戴した皆様のご芳名を記載させていただきました。

なお、学部広報誌等へのご芳名の掲載を希望されていない方は、記載されておりません。

## 在学生父母

赤木 敬司	浅倉 勉	阿部 淳一	有路 誠市郎	池淵 辰博	石井 あけみ	石川 豊
井戸 誠二	岩佐 正	上田 猛夫	上中 博之	遠藤 正昭	大石 博	大城 盛秀
大塚 俊明	大塚 信幸	大塚 正男	小川 昇一	加納 秀胤	河合 和浩	河野 通秀
川本 圭子	木部 光夫	桑嶋 哲朗	見目 芳一	小池 章	小坂橋 誠	小林 仁志
小林 誠	小山 文敬	近藤 賢	近藤 秀一	齊木 徹	三枝 智子	佐倉 匡
佐々木 満	澤村 敬子	芝崎 平	島田 浩一郎	鈴木 憲一	高橋 実	高村 和秀
瀧田 勇治	立川 智也	朝長 武雄	内藤 久嗣	長岡 聡	中島 一基	中田 正純
中西 修二	中村 良雄	中山 常明	永吉 正則	那須 良行	日塔 春見	花田 人志
林田 竜一	原 和広	原 浩美	半田 修	日野 哲彦	布施 義則	前原 直子
松尾 覚	松崎 武	松本 正文	松本 義郎	真船 智子	宮坂 尚利	美谷添 育翼
村田 修	山岸 まゆみ	山崎 実	山本 三郎	屋良 朝昭	湯山 亨	吉田 和弘
吉田 雅一	米田 俊之	渡邊 敏明				

## 校 友

朝日 洋	鮎川 研一	岩本 一利	植草 英男	大泉 清	大倉 一寿	大島 和義
大塚 健太郎	笠井 浩	鯉登 秀和	後藤 雄三	坂本 光弘	三五 弘之	高杉 一彦
田村 弘樹	内藤 輝夫	中野 淳一	平野 秀夫	森川 薫		

## 教職員（退職者を含む）

青山 定敬	朝香 智仁	井上 隆勝	岩館 雅子	内田 正則	内山 正典	大塚 哲郎
柏田 歩	片桐 一之	加納 陽輔	亀井 真之介	川島 晃	黒崎 昇次	小井戸 純司
小島 真	佐々木 修一	佐藤 可奈江	佐藤 雅信	佐藤 弘史	塩川 博義	塩見 昌司
下村 修一	正田 純一	菅原 三枝子	須田 理恵	鷺見 浩一	高崎 英邦	高橋 岩仁
高橋 進	高寄 正樹	田中 健士	田中 将義	中條 清美	綱嶋 富枝	綱島 均
永井 香織	中釜 達朗	中川 一人	中村 喜宏	野呂 知加子	畠山 しずか	姫本 宣朗
平林 明子	廣田 直行	福田 勝重	藤本 利昭	古川 茂樹	星谷 千恵子	細川 利典
正木 留里	間田 潤	松島 均	松本 和佳子	三上 功生	三井 和男	三井 幸子
水口 和彦	目黒 光彦	森 直樹	安原 恵子	山口 晋	山城 昌志	吉田 亘克
吉田 博光	吉野 悟	渡部 正				

## 企業・団体

(株)AKICO	池袋木工(株)	(株)入江三宅設計事務所	(株)オーテック	(株)甲斐機工
(株)梶建築設計事務所	株木建設(株)	(株)協栄商会	三光工業(株)	島津サイエンス東日本(株)
(株)清和ビジネス	セントラル総合サービス(株)	(株)創源	第一工業(株)	大成温調(株)
大成理化学工業(株)	東京警備保障(株)	東京美装興業(株)	(株)トーケイ	(株)日祥
ニラックス(株)	(株)ハセガワ	(株)ハリマビステム	バンセイ(株)	日比谷総合設備(株)
富士ゼロックス千葉(株)	文化シャッター(株)	ホテルニューオータニ幕張	前田道路(株)	三重銀総合リース(株)
(株)ヤマト	(株)雄電社	日本大学生産工学部校友会		

(敬称略、五十音順)

## 中国科技大学資訊學院（台湾）と学術交流に関する覚書を締結

台湾の中国科技大学資訊學院（College of Computer Science）と本学部は、平成 25 年 3 月 19 日に学術交流に関する覚書を締結し、今後、教員の相互研究交流や学生の交流を行うこととなりました。

調印式には松井学部長をはじめ、数理情報工学科からは細川教授、角田教授及び古市教授が参加いたしました。

なお、9 月には本研究科博士前期課程（修士課程）の学生が、生産工学特別実習（インターンシップ）の一環として中国科技大学で各自の実習テーマに関して指導を受ける予定です。また、今後はさらなる教育と研究の交流が期待されます。



## （財団法人）都市づくりパブリックデザインセンターが主催する「第 15 回まちの活性化・都市デザイン競技」で川岸研究室チームが「（財）都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞」を受賞

川岸梅和教授を代表とする川岸研究室チーム（大学院建築工学専攻博士後期課程 3 年 野田りさ、博士前期課程 2 年 田村一晃、高橋亮裕＋北野幸樹 准教授）は、（財団法人）都市づくりパブリックデザインセンターが主催する「第 15 回まちの活性化・都市デザイン競技」において「（財）都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞」を受賞した。（平成 25 年 6 月 25 日）

「共に生きる・活きる暮らし ～人の暮らしがみえるまちなかの Re・Design～」を作品のタイトルとし、「まちなかのコントラストの演出」、「コーポラティブハウジングによるまちなかの居住と賑わいの創出」を提案の 2 本柱として構成するとともに、暮らしを軸とした住・商・教育・娯楽の都市生活のデザインと構成要素についてまとめている。また、柳ヶ瀬商店街における大型空き店舗やアーケード等の再生・新たな魅力の付加等、まちなかの Re・Design を行うことで誇りや愛着の持てるまちづくり・まち育てを提案している。



# 新任教員 紹介

## 機械工学科

生産工学部機械工学科を卒業し、専任講師として平成7年まで勤務し、短期大学部での勤務を経て、本年4月より機械工学科に着任いたしました。

専門は摩擦熱を利用した接合を中心に、さらに実用化について研究を行っています。社会で応用できる技術・役立つような発想力を持ち合わせた技術者を送り出していけるよう、私自身も研鑽を積み、教育・研究に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



准教授  
野本 光輝  
ののもと みつてる

## 機械工学科

平成25年3月に本学生産工学研究科博士後期課程機械工学専攻を修了し、4月より機械工学科の助手として着任しました柳澤です。

研究は、考えただけで機器を操作するブレイン・コンピュータ・インターフェースに関する研究を行っています。

学生の皆さんが、ものづくりに関するさまざまな知識を楽しんで身につけられるよう、教育と研究に取り組んでいきたいと考えております。よろしくをお願いいたします。



助手  
柳澤 一機  
やなぎさわ かずき

## 土木工学科

私は、平成25年3月に生産工学研究科博士前期課程を修了し、4月より土木工学科の助手として勤めさせて頂いております内田と申します。現在は、教育プログラム、生産実習、広報などさまざまな仕事に携わらせて頂き、学生時代には分からなかった先生方の苦労や、学生に対する熱い思いを感じました。

これからは私自身も生産工学部土木工学科を支える一人として、学生たちに指導をしていこうと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



助手  
内田 裕貴  
うちだ ゆうき

## 建築工学科

はじめまして、建築工学科の助教となりました鎌田貴久です。末永くよろしくお願いいたします。

昨年は、秋田県能代市にある木材高度加工研究所で研究員をしていました。

私の専門は木質構造で、木質材料と利用に関する研究を行っています。

これまで、大学教育に従事したことはありませんが、学生には、「建築は雑学」の観点で、広い視野を持って多くのことに取り組んでもらえるよう心がけます。



助教  
鎌田 貴久  
かまだ たかひさ

## 応用分子化学科

半導体パッケージメーカーと独立行政法人産業技術総合研究所での勤務を経て、平成25年3月に本学大学院生産工学研究科で博士(工学)の学位を取得し、4月より応用分子化学科に助手として着任しました。

高分子化学、酵素工学を研究テーマに新規の機能性材料の研究に取り組んでいます。技術者、研究者としての経験を伝え、社会に貢献できる技術者を育成したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



助手  
木村 悠二  
きむら ゆうじ

## マネジメント工学科

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所および筑波大学連携大学院での業務を経て、平成25年4月にマネジメント工学科に着任いたしました。今年開設したフードマネジメントコースにおいて、学生諸君が、安全で美味しい食品を提供するフードビジネスについて理解し、必要なスキルを修得し、食品産業などで活躍出来る人材となるための教育および研究に尽力させて頂きます。よろしくお願い致します。



教授  
五十部 誠一郎  
いそべ せいいちろう

## マネジメント工学科

本年度着任しました三友です。

前職の独立行政法人海上技術安全研究所では、原子力プラントや船舶などに関するリスク評価の研究を20年以上行ってきました。

「安全」の確保のために「リスク」を知ること大切なことです。この「安全」と「リスク」について、これまでの経験を生かしながら、また エンジニアの卵である学生の皆さんの個性と好奇心を大切にしながら研究活動を行っていきたくと思っています。どうぞ、よろしくお願い致します。



教授  
三友 信夫  
みつとも のぶお

## マネジメント工学科

本年4月1日にマネジメント工学科に准教授として着任いたしました。それまでは、文化ファッション大学院大学に7年間勤務しておりました。

循環型社会の構築を念頭に環境に配慮しつつも、効率的な収集運搬・回収システムの設計とその最適化についての研究などを進めています。

伝統あるマネジメント工学科で学生とともに研究、教育に切磋琢磨していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。



准教授  
鈴木 邦成  
すずき くにのり

## 環境安全工学科

本年4月より環境安全工学科に助教として赴任いたしました武村と申します。

平成11年3月に本学生産工学研究科土木工学専攻博士前期課程を修了後、これまで14年間他大学で研究・教育に携わってきました。これまでは、専門である河川環境工学、応用生態工学を中心に水圏の環境に関する研究を行ってまいりました。

今後は、多分野の方が所属する本学科の強みを享受しながら、教育・研究活動に邁進していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



助教  
武村 武  
たけむら たけし

## マネジメント工学科

早稲田大学にて助手を勤めたのち、本年4月より、マネジメント工学科に着任いたしました。専門は生産管理学で、関連システムの改善に役立つ方法論の開発と応用に取組んでいます。

担当授業・演習科目は、経営情報管理およびマネジメント工学基礎実験Iなどです。生産工学部の歴史と伝統を学びながら、その先の未来をつくりだす一助となるべく、精進して参りたいと考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします。



准教授  
村田 康一  
むらた こういち

## 教養・基礎科学系

千葉県立佐倉高等学校の卒業生の私は、高校生の頃より何度か実習校舎を訪れており、生産工学部にはご縁を感じての着任です。もっとも高校卒業後の私の歩みは順調ではなく、生きることに悩み大人になることに躓き、本学文理学部には27歳で入学、その後41歳で博士号(教育学)を取得、現在は46歳です。教職課程を担当いたします。

着任詠1首「向き合わぬ過去の自分に逢うように少年の目の学生来れば」。よろしくお願いいたします。



准教授  
山岸 竜治  
やまぎし りゅうじ

## 数理情報工学科

東京都立大学、および後継の首都大学東京での助教を経て、本年4月より数理情報工学科に着任いたしました。

ディペンダブルコンピューティングという専門分野で、コンピューターやネットワークシステムの高信頼設計および評価に取り組んでいます。

教育および研究を通して、情報通信システムの安心、安全に精通した技術者・研究者の育成に尽力する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



助教  
新井 雅之  
あらい まさゆき

## 教養・基礎科学系

本年度4月より教養・基礎科学系の助教として着任いたしました。主に、競技におけるナショナルレベルの選手強化やコーチングに携わりながら、その実際の動作を解析・研究し、客観的データとして選手へフィードバックを行っています。

授業はスポーツ実技を担当しています。スポーツを行うことによって、充実感・爽快感・達成感などを得られるような授業の展開を目指しています。一生懸命頑張っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

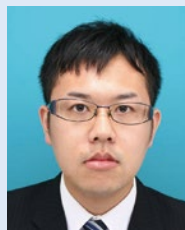


助教  
新井 健一  
あらい けんいち

## 数理情報工学科

高橋亜佑美と申します。平成25年3月に日本大学大学院生産工学研究科数理情報工学専攻で学位を取得し、4月から数理情報工学科に着任しました。専門は振動・音響学で、学位論文では自動車の高周波騒音解析に関する研究を行いました。

数理情報工学科の卒業生として、同学科の教員になれたのは大変名誉なことであり、心からうれしく思います。これからも高い意識を持ち、教育・研究活動に邁進していきますので、よろしくお願いいたします。



助手  
高橋 亜佑美  
たかはし あゆみ

## 教養・基礎科学系

この4月から教養・基礎科学系に助教として着任しました。専門は複雑系の物理学で、自然界に存在する様々なパターンや社会科学的なトピックス、さらにはヒトの咀嚼・嚥下過程などの物理学的研究を行っております。

現在、物理・情報系の科目を担当しており、試行錯誤しながら学生と向き合う充実した日々を送っています。

今後も教育、研究で社会貢献をしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



助教  
小林 奈央樹  
こばやし なおき

# 第6回 風力発電コンペ

# WINCOM2013 開催

生産工学部は本年度も「ものづくりの楽しさ」と「環境に優しい風車発電機の性能」を自転車発電機で競う「第6回風力発電コンペ WINCOM2013」を11月に開催します。

優秀賞やアイデア、デザイン賞など多数の賞も用意しています。

「高校生グループまたは個人」の応募には出身校の後輩への勧誘を、オープン参加の「大学生や社会人のグループまたは個人」に在校生の皆さんの参加をお待ちしております。

**開催日：平成25年11月3日(日)**

**会場：生産工学部津田沼キャンパス**

**エントリー期間：平成25年7月14日～9月14日**

**参加50チームを募集中!!**

応募要項は <http://www.cit.nihon-u.ac.jp/wincom/> に掲載されています。

未来工房を活用して夢あふれる風力発電システムでエントリーください。

第6回風力発電コンペ実行委員会

主催：日本大学生産工学部

後援：日本大学生産工学部校友会、日本風力エネルギー学会、日本機械学会関東支部千葉県ブロック、千葉県教育委員会

開催日：平成25年11月3日(日)、搬入日11月2日(土)

問合せ先：日本大学生産工学部第6回風力発電コンペ2013事務局

TEL/FAX 047-474-2461 Eメール：cit.wincom@nihon-u.ac.jp

第6回 風力発電コンペ  
**WINCOM 2013**  
参加校募集

開催日：平成25年11月3日(日)

主催：日本大学生産工学部  
後援：日本大学生産工学部校友会、日本風力エネルギー学会、日本機械学会関東支部千葉県ブロック、千葉県教育委員会  
会場：日本大学生産工学部 津田沼校舎

第6回風力発電コンペ「WINCOM 2013」  
URL: <http://www.cit.nihon-u.ac.jp/special/wincom/>  
日本大学生産工学部 第6回風力発電コンペ WINCOM 2013 事務局  
TEL/FAX 047-474-2461  
E-MAIL: cit.wincom@nihon-u.ac.jp

開催要項・実施要項はWINCOM 2013のHPをご覧ください。

オープンキャンパス  
風車模型や過去作品の展示・公開を行います。  
日時：7月14日(日)、8月3日(土)、8月4日(日) 場所：日本大学生産工学部 津田沼校舎39号館未来工房 日本大学

# CAMPUS event NEWS

## 第36回 鳥人間コンテスト選手権大会

今年も津田沼航空研究会が滑空部門に出場決定!

**開催日：7月27日(土)・28日(日)**

**開催場所：琵琶湖松原水泳場**

**大会主催：読売テレビ**

<http://www.ytv.co.jp/birdman/>

書類審査の難関をクリアし、今年も鳥人間コンテスト選手権大会への出場が決定しました!

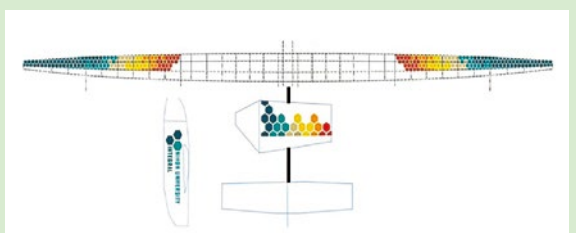
今年の機体名は「integral (インテグラル)」です。数学の「積分」という意味の他に、「完全体」、「欠けることのない」、「積み重ね」という意味があります。また、「積分」を行うとより次元の高い関数になることから、「integral」に「新たな次元へ」という意味を持たせました。

私たちは今年の機体名に、これまで「積み重ね」てきた経験や技術力と、部員全員の力を「欠けることなく」合わせることで「完全体」を生み出し、「新たな次元(優勝)」に挑戦する、という決意を表しました。

ぜひ、応援をお願いいたします。



主翼製作に取り組む部員たち



今年の機体デザイン

## 平成25年度行事予定（後期）

行 事	2~4年次：津田沼校舎	1年次：実籾校舎	大学院	備 考
A O 入 学 試 験	9月14日(土)・15日(日)			
後 期 ガ イ ダ ン ス	9月20日(金)※応用分子化学科1・2・3年のみ9/19(木)・20(金)		9月20日(金)	
後 期 授 業 開 始	9月23日(月・祝)			
卒業式・学位授与式(9月)	9月26日(木)		9月26日(木)	
父 母 懇 談 会	9月28日(土) 津田沼校舎			
創 立 記 念 日	10月4日(金)			休 校
編 入 学 試 験(2年次・3年次)	10月12日(土)			
外 国 人 留 学 生 入 学 試 験	10月12日(土)		10月12日(土)	
帰 国 生 入 学 試 験	10月12日(土)			
校 友 子 女 入 学 試 験	10月12日(土)			
父 母 懇 談 会	10月26日(土) 地方別実施			
学 部 祭(桜 泉 祭)	11月3日(日)・4日(月・祝)			11/2(土)準備日・ 11/5(火)片付日
オ ー プ ン ラ ボ	11月3日(日)			
指 定 校 制 推 薦 入 学 試 験	11月16日(土)			
提 携 校 推 薦 入 学 試 験	11月16日(土)			
保 健 体 育 審 議 会 推 薦 入 学 試 験	11月16日(土)			
ト ッ プ ア ス リ ー ト 推 薦 入 学 試 験	11月16日(土)			
付 属 高 等 学 校 等 推 薦 入 学 試 験(B方 式)	11月16日(土)			
博 士 論 文 提 出 期 日			11月22日(金)	
学 術 講 演 会	12月7日(土)			
公 募 制 推 薦 入 学 試 験	12月14日(土)			
付 属 高 等 学 校 等 推 薦 入 学 試 験(A方 式)	12月14日(土)			
冬 季 休 業	12月24日(火)～1月9日(木)		12月24日(火)～1月9日(木)	
後 期 授 業 終 了	2月3日(月)			学部：12/21、1/11、29、 30は授業予備日
補 講	土曜日適宜実施			
大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験(C方 式)	1月18日(土)・19日(日)			
修 士 論 文 概 要(初 稿)提 出 期 日			1月23日(木)	
一 般 入 学 試 験	N 1 方 式	2月1日(土)		
	A 1 方 式	2月2日(日)		
	A 2 方 式	2月9日(日)		
	A 3 方 式	2月19日(水)		
修 士 論 文 提 出 期 日			2月24日(月)	
大 学 院 入 学 試 験(第 2 期)			3月1日(土)	
転 科 試 験(2 年 次)	3月3日(月)			
卒 業 式・学 位 授 与 式	3月25日(火)		3月25日(火)	日本武道館

### 個人情報の取扱い告知文

日本大学生産工学部

入学手続時及び在学中に収集する学生本人及び保証人の氏名、住所、生年月日及びその他の個人情報は、学籍・成績管理、教育、学生生活支援、学費の案内、図書館利用、就職支援等及びこれらの業務に付随する学生及び保証人への連絡・通知・掲示等、本大学の教育事業に必要な範囲で利用します。

また、これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。

なお、本大学では、学生への教育・指導をより適切に行うため、保証人に対して学生の学業成績及び出席状況等の開示並びに履修状況等についての相談を行う場合があります。

(問合せ先) 生産工学部教務課・学生課

## 新装なった実朮キャンパス第一球場



生産工学部実朮キャンパス第一球場の整備が平成 25 年 2 月に完了しました。

昭和 57 年に設置以来 31 年目、グラウンドの土面は人工芝になり、フェンス、スコアボードなども新しくなりました。